

# 沼津市の現状や特性を踏まえた少子化対策施策の立案について

静岡県立大学 看護学部 中川ゼミ（研究室）

指導教員：准教授 中川有加

参加学生：深津奈那、熊倉寿音、川上帆乃果

## 1 要約

令和元年の改正母子保健法において、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援のため各市区町村に産後ケア事業設置に関する努力義務が規定され、妊娠期から産後子育て期に様々な支援が実施されているが、妊娠・出産する女性だけでなく、男性や次世代の子どもたちを育むために将来親となる可能性のある男女とその親など全ての人が生涯にわたって健康に生活していくための支援対策は十分とは言えない。その支援対策の一つとして、妊娠以前から親あるいは将来親となる可能性のある人々がセクシュアリティを含む自分自身の健康を維持すること、そして、妊娠・出産・子育てに関する正しい知識をもち、地域とのつながりの中で自信をもって子どもを育てていくことができるよう、将来親となる可能性のある子どもに対し、専門職による適切な情報提供を含んだ包括的性教育およびプレコンセプションを浸透させていくことが必要である。二つ目の支援対策として、地域で暮らす同じような状況にある親同士が交流し、情報交換や悩みごとを共有する機会や場を提供することが必要である。特に、父親が母親をサポートし、共に積極的に育児をすることで、母親の育児負担感の軽減、母親の幸福度を高め、第2子・第3子以降の出生割合が上昇することから父親への支援を積極的に行う必要がある。情報提供だけでなく、男親としての立場で交流する場や悩みごとを共有する機会の提供という支援が、安心して子どもを産み育てられる環境をもたらし、次世代の親支援、少子化対策につながると考えた。そのため、沼津市の少子化対策として、沼津市在住の方を対象に「輪になって話そう！自分のからだ、子育て、これからのこと」をメインタイトルにして「親子で学ぼう、自分のからだ」「パパのミーティング in ぬまづ」の企画、運営、実施、評価を行った。11月のイベントは、リーフレットを作成し、広報活動を進めるのに1か月半と短かったため、参加者が2名と少なかった。しかし、教員や看護学部4年生1名もディスカッションに加わり、個々の母親が抱える悩みを聞き出し、効果的なサポートができた。定期的な実施してほしいとの希望も聞かれた。1月のイベントは、珍しい取り組みとして事前と当日に静岡新聞社の取材が入った。参加者は、父親3名、母親1名、子ども5名で父親には、子育てにおける女親との考え方の違いと今後の工夫、そして、男性更年期について説明の後、父親同士でディスカッションを行った。母親と子どもには、アロマサシェや芳香剤作成と別内容で実施した。参加者の父親2名は、「パパ会」をやろうと考えていて、参考にする目的で今回のイベントに参加された。地域における自助グループの取り組みの一助となるイベントであったと考える。今後は、不定期であっても継続した実施につなげていきたい。

## 2 研究の目的

助産学の教員と助産師を目指す学生が次世代育成および父親への支援のイベントの運営及び開催することを目的とした。

## 3 研究の内容

沼津市在住の方を対象に「輪になって話そう！自分のからだ、子育て、これからのこと」をメインタイトルにして「親子で学ぼう、自分のからだ」「パパのミーティング in ぬまづ」の企画・運営・実施・評価を行った。

## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

7月より日本における包括的性教育を含むプレコンセプションケアの歴史的背景から現在の状況、学校教育における性教育の変遷、少子化対策に関する法律や地域における実施内容および沼津市の人口動態や子育て支援に関して文献学習を開始する。10月に父親支援のイベントを実施し、11月または12月に親子で学ぶプレコンセプションケアのイベントを実施する。

### (2) 実際の内容(B)

7月末より日本における包括的性教育を含むプレコンセプションケアの歴史的背景から現在の状況、学校教育における性教育の変遷、少子化対策に関する法律や地域における実施内容および沼津市の人口動態や子育て支援に関して文献学習を開始した。また、父親に焦点を当てて、国や地方公共団体、NPO法人による支援に関して情報収集を行い、資料の確保に努めた。7月23日に、沼津市役所 政策推進部 政策企画課 企画係の担当者とオンラインで打合せを行った。10月に父親支援のイベントを実施する予定であったが、10月開催の会場確保ができず、11月または12月に実施予定であったイベントを先に実施することになった。

10月に思春期保健相談士の教員が中心となり、実施計画を策定し、リーフレットを作成して、グーグルフォームで参加者を募った。



1月のイベントは、10月に実施する予定であったので早めにリーフレットを作成していた。実施計画を策定し、父親には子育てに関して、男親と女親の考え方の違いや身体的な疲労、そして、近年注目されている男性更年期に関してのミニ講義の後、父親同士でディスカッションする時間を設けた。母親および子どもも参加OKとしていたので、父親とは別の内容を検討した結果、アロマサシェや芳香剤の作成を計画した。また、子どもたちには折り紙や塗り絵を考え、必要物品に追加した。12月に入りグーグルフォームで参加者を募った。両イベントともに

沼津市の後援依頼を申請し、認可を受けた。また、沼津市の広報紙に掲載して頂き、政策企画課、子育て未来創造課、健康づくり課、地域自治課にリーフレットを配架して頂いた。また、静岡県立大学のホームページと母性看護学・助産学領域のInstagramに掲載し、静岡県助産師会にリーフレットを配架して頂いた。



### (3) 実績・成果と課題

沼津市の現状や特性を踏まえた少子化対策施策として、ぬましんCOMPASS NUMAZU ワークショップスタジオBUZZを使用して、11月29日(土)10時～11時40分「親子で学ぼう！じぶんのからだ」と1月10日(土)10時～12時「パパのミーティングinぬまづ」を実施した。沼津では、子育て関係でサークル活動は、行われているが、プレコンセプションケアの取り組みが少ないことから、包括的性教育とからだの権利について思春期保健相談士である教員から講義を30分行い、その後、輪になって子どもの性に関することや子育ての悩みを話し合った。A母親は子どもが16歳で妊娠に関する話題を家庭でどのように話したらよいか、緊急避妊薬に関する内容など具体的な相談があった。B母親は、7歳の男児と3歳の女児を連れてきており、男児の性教育についてや下着の汚れの対処について発言があった。教員のアドバイスだけではなく、子どもの年齢が異なるので、B母親の相談にA母親も発言があり、また、参加した学生から親に対しての接し方など経験談を話し、少ない人数ながらあっという間に終了時間となった。

父親支援に関して、沼津市は、出生数が令和7年度881人と令和3年から1000人を下回り、減少傾向である。しかし、沼津市の子育て世帯の7割以上が子どもを2人以上持ちたいと希望している。子育て関係のサークルで父親を対象としたイベントは見当たらなかった。そこで今回は、子育てに関して応援する意味を込めて、妊娠・出産による女性の身体や精神的な変化を説明し、対応を仕方や子育ての工夫、夫婦での話し合いの必要性について30分講義を行った。その後、近年、注目されている

「男性更年期」に関して、メディカルアロメインストラクター、メンタル心理カウンセラーの下坪壮介氏に「男性更年期におけるアロマケア」について20分の講義を行った。その後、「えんたくん」を使用して、参加者3人と下坪氏も加わり、4人でディスカッションを行った。まず、『不満なこと』について話し合ったが活発なディスカッションとは言えなかった。今後は、「えんたくん」に書くというよりも、ファシリテータが入って会話を進めた方が効果的なディスカッションができると考える。また、今回は、興味深い取り組みとして静岡新聞社の取材が、事前と当日にあった。参加者には、事前に取材が入る事と撮影があることをお知らせし、承諾を得た。今回の試みをどのように沼津市に拡げて定着させるかが今後の課題である。

#### (4) 今後の改善点や対策

広報活動を早くから展開していく必要がある。今回、1回目のイベントが会場確保に難航し、リーフレット作成から広報活動まで1ヶ月程度しかなかった。イベントの実施が、土、日に限定したため、会場確保と広報活動を2か月前から取り組んでいきたい。2回のイベント共に、地域の課題提出者からは、参加する際の子どもの年齢を設定した方が良いのではないかとご意見を頂いたが取立て年齢制限はしなかった。その理由として、参加者が限られてしまい、参加人数が少なくなることが懸念されたことと母性看護学・助産学領域の教員9名は、臨床経験豊富な助産師であり、保育士の資格を持つ教員も1名おり、どのような年齢の子どもにも対応できると考えたからである。また、年齢が異なることで参加者の悩みや疑問も共有が可能であると考えた。今後も対象年齢は、設定しない方向で考えていく。内容に関しては、30分程度の講義は、効果的であったため、参加者のニーズに合った項目により焦点を当てて実施していく。父親に関しては、「書く」よりも話す、そして、『不満な事』と言ったネガティブは話題よりは、『楽しかった事、嬉しかった事』などポジティブな話題で話し合った方が活発なディスカッションができると考えている。

### 5 課題提出者・地域への提言

今回、「パパのミーティング」に参加した2名の父親は、「パパ会」を開催したいので、方法や内容等を知るために申し込んだと話されていた。富士宮市では、富士宮市健康増進課がパパの育児応援事業「ミヤパパPROJECT」を主催し、「ミヤパパbook」を作成して広報紙でも呼びかけている。沼津市においても、パパ会など要望があるため、子育て未来創造課または健康づくり課で、「プレコンセプションケア」や「ぬまづパパ(仮)」のイベントを企画したり、冊子を作成することも効果的だと考える。そして、沼津市の「子育て応援サークル いちご」に有料でもチラシ配布の協力を相談する、また、ふじのくに子育て支援ネットワークというオープンチャットでPRすることも方法として挙げられる。しかし、富士市の開業助産師に伺うと、沼津市のイベントでは、SNSはあまり効果がないイメージとの事で、「性教育に関して、小学生くらいの親が対象であれば、学童保育や塾にリーフレットを配架する、そして、チラシとリアルな声かけが1番効果がありそうとアドバイスを頂いた。あとは、今回も実施したように、新聞広告ではなく、記事として事前取材してもらうことも効果的で、インターネットで見て来る人より、新聞を見たという人の方が多いと思うとお話があったので、静岡新聞だけではなく、地元紙に取材を依頼することを今後検討が必要である。

### 6 課題提出者・地域からの評価

課題者は、今回、会に参加されていなかったため、具体的なコメントは、2月11日の発表に参加された際に伺う予定である。